

漱石を 巡る②



『二百十日』編

【モデルコース】熊本市～阿蘇

内坪井旧居	わが輩通り	並木坂	明行寺	句碑(阿蘇山三合目)	阿蘇中岳火口
徒歩3分	徒歩すぐ	徒歩すぐ	車で20分	車で30分	車で30分

内坪井旧居(第5旧居)

漱石が熊本在住中、6回転居した中で5番目に住んだが、こちらの旧居です。漱石一家は、熊本で住んだ家の中では最も長い1年8ヶ月間をこの家で暮らしました。鏡子夫人も「熊本にいた間、私どもが住んだ家の中で一番いい家だった」と語っています。長女の筆子(ふでこ)さんもこの家で誕生。『二百十日』の題材となった阿蘇への旅行はこの家から出発したそうです。現在、記念館として公開されている館内には漱石が暮らし当時の面影が色濃く残っています。

住 熊本市中央区内坪井町4-22 **☎** 096-325-9127
P 無料6台 **時** 9:30~16:30 **休** 月曜(祝日の場合は翌日)
料 大人・高校生200円・小・中学生100円・未就学児無料
 (熊本市内の小・中学生、65歳以上の方は無料)

わが輩通り

上熊本駅から藤崎宮に続く通り。漱石の処女小説『吾輩は猫である』にちなんで命名されました。



並木坂



アーケード街の終点から続く、並木道と石畳の通り。若者向けの古着屋、レストラン、昔ながらの佇まいを残す老舗の和菓子屋など、新旧織りなすお店が並んでいます。隠れた名店も多く、散策するのにぴったり。古書店「舒文堂河島書店」は漱石だけでなく、三島由紀夫も通ったという歴史ある書店。漱石もこの界隈を散歩したことでしょう。

白露や
研ぎすましたる
鎌の色

宿泊もおすすめ!

うちのまき 内牧温泉

明治34年8月末~9月にかけて阿蘇旅行をした際、漱石も訪れた「内牧温泉」。当時漱石が宿泊した旅館は閉業しましたが、現在も20軒を超えるホテルや旅館が建ち並び、阿蘇を代表する温泉地です。内牧から眺める阿蘇五岳の壮大な景色も魅力で、漱石以外にも、与謝野鉄幹・晶子など多くの文豪も訪れました。



みょうぎょうじ 明行寺

小説『二百十日』にも登場するお寺。敷地内には樹齢数百年と言われる「明行寺の枝垂桜」や、高さ22メートルの市天然記念物の大イチョウがあり、四季折々楽しめます。

住 阿蘇市阿蘇町小里157 **☎** 0967-32-0237
P 無料約25台



白萩の
露をこぼすや
温泉の流

「二百十日」の記念碑

(阿蘇市坊中キャンプ場内、外周)

漱石は阿蘇旅行の際、阿蘇山登山を試みましたが、嵐に遭い断念したとされています。のちに、この体験を基に『二百十日』を執筆しました。『二百十日』の中で道に迷ったとされる地点に建てられた記念碑がこちら。

住 阿蘇市黒川 阿蘇山三合目 **☎** 0967-34-0351
 ※入場可否は要確認。3~4月頃に草刈実施



行けど萩
行けど薄の
原広し

阿蘇中岳火口

世界最大級のカルデラである阿蘇一体の中央部にそびえる阿蘇五岳(根子岳・高岳・中岳・烏帽子岳・杵島岳)。その中でも、現在も活発な活動を続けているのが、漱石も目指した中岳。周囲4キロの巨大な噴火口から、噴煙の上がる様子やダイナミックな風景を間近で見学することができます。

P 無料 **時** 時期により変動 **料** 火口見学無料
 ※火口までの有料道路「阿蘇山公園道路」自動車1,000円
 ※阿蘇火山火口規制情報で要事前確認



ちょこっと 立ち寄り

草千里

阿蘇の代表的な風景の一つ。レストランやカフェ、お土産屋さんもあるのでドライブ途中の立ち寄りにおすすめ!

P 乗用車500円 **時** 常時開放



草千里珈琲焙煎所



住 阿蘇市永草2391-15
 (ニュー草千里内)
時 10:00~17:00
休 不定休

熊本市新町にある人気店、珈琲回廊がプロデュースするロータリー兼カフェ。白を基調とした洗練された雰囲気の内からは、広大で美しい草千里の景色が一望できます。メニューはコーヒーの他にも、竹炭を使ったチャコールラテやアイスクリームなども。